

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320055

研究課題名(和文)「幻の源氏物語絵巻」の文化史的意義 近世前期の源氏物語享受をめぐる総合比較研究

研究課題名(英文) The Cultural Significance of "Once-Lost" Picture Handscrolls of The Tale of Genji: Multiple and Comparative Studies of the Reception of the Tale of Genji in the First Part of the Early Modern Period

研究代表者

小嶋 菜温子(勝原菜温子)(KOJIMA, Naoko)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：50204441

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円、(間接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは、幻の「源氏物語絵巻」の文化史的な意義の解明を目的とするものであった。研究代表者をはじめとするプロジェクトメンバーの三年間にわたる研究において、この絵巻の成立背景と、周辺資料との比較研究において有意義な成果を得ることができた。完成年度の2013年度に開催した国際シンポジウム「幻の源氏物語絵巻をもとめて・続」において、その研究成果を公開したが、シンポジウムでの成果を2014年度に論集として公刊する予定である。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of the project was to elucidate the cultural significance of "once-lost" picture handscrolls of The Tale of Genji. During the project's three years, its initiator and project researchers achieved important successes in investigating the background of the production of "once-lost" picture handscrolls of The Tale of Genji and in pursuing comparative studies with bordering fields. The international symposium, The Search for "Once-Lost" Picture Handscrolls of the Tale of Genji II, which was held in 2013, the final year of the project, ably demonstrated the project's accomplishments and will be published as a compilation of articles in 2014.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：絵巻 源氏物語 注釈 享受史 海外コレクション 国内所蔵機関 美術史 国文学

### 1. 研究開始当初の背景

幻の「源氏物語絵巻」(仮称)の存在については、本プロジェクトの研究代表者：小嶋菜温子を軸とする立教大学の研究チームがこれを公にし、それまで等閑視されていた近世初期(17世紀前半)の『源氏物語』の絵画的な享受についてのあらたな視点を提示したのであった。関連調査は、同立教大学チームにより、2006年から開催され、国外・国内調査を積み重ねてきた。2011年からはじまった本プロジェクトはその実績の上にたちつつ、さらなる調査展開を企図して組まれたものである。初年度の2011年は東日本大震災の発生もあり、研究代表者を中心とする最小限のメンバーで海外調査をスタートさせる形となるなかで、連携研究者：佐野みどり氏の重点的な海外調査を推進することができた。

### 2. 研究の目的

本プロジェクトは、幻の「源氏物語絵巻」と仮称する、近世初期(17世紀前半)成立の絵画資料について、その価値の闡明と文化的な位置づけを目指すことを目的とした。近世初期の社会と文化の状況は、戦国時代からの脱皮とそれにとまなう混乱のただなかにあった。京都の天皇・院をはじめとする公家社会集団、徳川將軍家を中心とする大名家集団、新興勢力としての町方集団、ひいては寺社を中心とする各種宗教勢力集団といった、流動的で多層化した社会にあって、『源氏物語』の受容も多岐にわたり、多様な様相を呈していた。そのなかで、豪華にして膨大な、幻の「源氏物語絵巻」が成立したことの意義はきわめて深く、その意義の闡明は近世初期の文化状況の解明につながる重要な糸口となるのである。本プロジェクトは、この絵巻の成立背景と周辺資料の探索をとおして、日本文化史のミッシングリンクというべき、近世初期の文化状況の解明に取り組みたいと考えた。

### 3. 研究の方法

海外調査と国内調査を、連携研究者・研究協力者で分担して推進した。海外調査の対象地域は、アメリカ(ワシントン・NY・シカゴ・サンフランシスコ・オレゴン・シアトル)、フランス(パリ)、ドイツ(ミュンヘン、シュツツガルト、ブレーメン)、ベルギー(ブリュッセル)、スイス(チューリッヒ、ジュネーブ)、イギリス(ロンドン)、アイルランド(ダブリン)、スウェーデン(ストックホルム)、韓国(ソウル)。国内調査の対象地域は、京都(京都国立博物館・細見美術館・宇治市源氏物語ミュージアム)、名古屋(徳川美術館・蓬左文庫・名古屋市立博物館)、奈良(奈良国立博物館・大和文華館・奈良大学)、箱根(岡田美術館)、広島(耕三寺)、島根(島根県立美術館)など。これらの調査をとおして、幻の「源氏物語絵巻」の成立事情、そして周辺資料との比較検証を進めることができた。

対外的な活動としては、研究代表者をはじめとして各種講演における研究報告を行うとともに、国際会議(「二重の異文化としての中世」における報告「幻の「源氏物語絵巻」をめぐって 日本中世・近世の古典享受と絵画化」：小嶋菜温子)や、出版(座談会「世界の源氏物語絵」『アナホリッシュ國文學第4号』：小嶋菜温子・高橋亨・高岸輝など)をとおして、問題の絵巻に関する研究成果の公開に努めた。

### 4. 研究成果

三年間の研究成果は、研究代表者をはじめとするメンバーの業績の示すとおりであるが、本プロジェクトの完成年度である2013年度に開催した国際シンポジウムは、それらの総括の場として有益であった。立教大学日本学研究所主催：国際シンポジウム「幻の「源氏物語絵巻」をもとめて・続」(7月28日)がそれである。シンポジウムではプロジェクトメンバーが軸になり、関連研究者総勢 15

名が集結し、6 時間にわたる白熱した議論を展開することができた。外部からの来場者もすべて各専門分野の第一線の研究者であり、シンポジウムでの議論に大いに啓発された様子が顕著であった。シンポジウムの成果は、論集「幻の源氏物語絵巻をもとめて」(高橋亨・佐野みどり・小嶋菜温子編、思文閣出版)として今秋刊行予定である。

海外調査に関しては、当初計画したライデン大学で調査(某大学による悉皆調査のため閲覧停止)を除き、予定以上の広範囲での活動を行うことができた。国内調査も当初の想定外の地域での探査に加えて、新資料の発見もあり、多大の成果を見出すことができた。新たな課題である、朝鮮通信使由来の故宮コレクションの行方についても、研究協力者：李愛淑氏(韓国国立放送大学教授)・金ヨン Chol 氏(全州大学教授)等と連携しつつ、「幻の源氏物語絵巻」解明のための調査研究の一環として追及を続けたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

小嶋菜温子、高岸輝、高橋亨、座談会「世界の源氏物語絵巻 いまなぜ光があてられたか」、アナホリッシュ國文學、査読無、第4号、2013、4-48

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」発見と注文主の謎、一冊の本、査読無、11月号、2011、14-15

[学会発表](計28件)

小嶋菜温子、“幻の源氏物語絵巻”から見る性と生、朝日カルチャー特別講演(招待講演) 2013年11月24日、朝日カルチャーセンター名古屋教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」をめぐる、韓国日本語文学会大会(招待講演) 2013年10月12日、韓医大学

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」をもとめて・続、立教大学日本学研究所国際シンポジウム、2013年7月28日、立教大学

小嶋菜温子、国宝「源氏物語絵巻」を読む「夕霧」、朝日カルチャー特別講演(招待講演) 2013年7月15日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、絵になる女君 幻の「源氏物

語絵巻」と能、国立能楽堂普及公演(招待講演) 2013年7月13日、国立能楽堂

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」をめぐる 日本中世・近世の古典享受と絵画化、文学部文学科ドイツ文学専修創立50周年記念国際会議「二重の異文化としての中世」、2013年6月22日、立教大学

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2013年3月21日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」について、絵入り本国際集會(招待講演) 2013年3月19日、慶応義塾大学

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2013年3月7日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2013年2月7日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2013年1月24日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2012年12月13日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2012年11月8日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2012年10月11日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2012年9月20日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2012年8月9日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2012年7月12日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2012年6月14日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2012年5月10日、朝日カルチャーセンター新宿教室

小嶋菜温子、幻の「源氏物語絵巻」を読む、朝日カルチャー公開講座(招待講演) 2012

年 4 月 12 日、朝日カルチャーセンター新宿教室

- ②小嶋菜温子、幻の源氏物語絵巻をめくって、招待講演、2011 年 5 月 7 日、群馬県立女子大学

〔図書〕(計 9 件)

小嶋菜温子 他、武蔵野書院、源氏物語と儀礼、2012、806 (1-18)

小嶋菜温子、朝日新聞社、絵巻で楽しむ源氏物語 総合、2012、36

小嶋菜温子、朝日新聞社、絵巻で楽しむ源氏物語 賢木、2012、36

小嶋菜温子、朝日新聞社、絵巻で楽しむ源氏物語 末摘花、2011、36

小嶋菜温子、朝日新聞社、絵巻で楽しむ源氏物語 桐壺、2011、48

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小嶋 菜温子 (勝原菜温子)

(KOJIMA, Naoko)

立教大学・文学部・教授

研究者番号 : 5 0 2 0 4 4 4 1

### (2) 研究分担者

なし

研究者番号 :

### (3) 連携研究者

高橋 亨 (TAKAHASHI, Toru)

椋山女学園大学・国際コミュニケーション

学部・教授

研究者番号 : 1 0 0 9 3 0 4 8

佐野 みどり (SANO, Midori)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号 : 6 0 1 7 8 8 1 1